



まちのお風呂屋さんに王様が来たぞ！（本文中に関連記事があります）

## 目次／contents

### ひと・まち・地域

- 地域から少子高齢化への対応を考える（その3）～出生率低下を  
推し進めている未婚化・晩婚化～ / 森脇宏 2
- 「隠れキリシタンの里 千提寺さと巡り」を開催しました  
/ 岡崎まり・中塚一・嶋崎雅嘉 5

### きんきょう

- 秋のバルフェス+あべのハルカスバル in 阿倍野・天王寺の  
開催をお手伝いしています / 中塚一・西村創・羽田拓也 6
- 西京銭湯部隊沸いてるんジャー参上！！ / 嶋崎雅嘉 7
- お盆 / 三輪泰司 8

### メディア・ウォッチ

- 『デモクラシーを〈まちづくり〉から始めよう』 / 坂井信行 9

### まちかど

- まちなかに響く「阿波おどり」の音色 / 高田剛司 10



## 地域から少子高齢化への対応を考える

(その3～出生率低下を推し進めている未婚化・晩婚化～)

／代表取締役社長 森脇宏

前々号(その1)と前号(その2)では、「女性の就業率」を切り口に、出生率を高めるには女性の就業率を高めることが有効であること、さらに女性の就業率が高い市町村は、保育サービスが用意され、身近に就業の場があり、実家の子育てフォローが比較的多いと思われることを示しました。

しかし、この出生率を巡っては、もう一つ「未婚化・晩婚化」という切り口があります。「結婚しないので子どもが生まれていない」「晩婚のため、年齢的制約から子どもが生まれていない」などの指摘があります。今号では、この「未婚化・晩婚化」を切り口に、もう少し少子化の原因を考えてみます。

### 出生率と強い相関がある未婚率

まず、関西の市町村別に15～49歳女性の未婚率(未婚者の比率、死別・離別・不詳を除く)と、子ども女性比(15～49歳の女性人口に対する0～4歳人口の比率)の相関を下図のグラフにみますと、極めて明確な相関が確認でき(相関係数R = 0.68)、女性の未婚率が低い市町村ほど、出生率(代替指標としての子ども女性比)も低いと言えます。

### 未婚女性のライフコース意識

そこで次に未婚率を左右する要因を考えることとしますが、その前提として、まず未婚女性が考えるライフコース(結婚、出産・子育て、就業の組み合

わせ)について、国立社会保障・人口問題研究所による「第14回出生動向基本調査 わが国独身層の結婚観と家族観」(2010年)を用いて眺めてみることにします。

この調査においては、未婚女性に対して、専業主婦コース、再就職コース、両立コース、DINKSコース、非婚就業コースと、5つのコースを示して、理想とする理想コースと、実際になりそうな予定コースを選ばせており、その結果は次頁のグラフの通りです(各コースの説明は、当該グラフの注釈に記されています)。

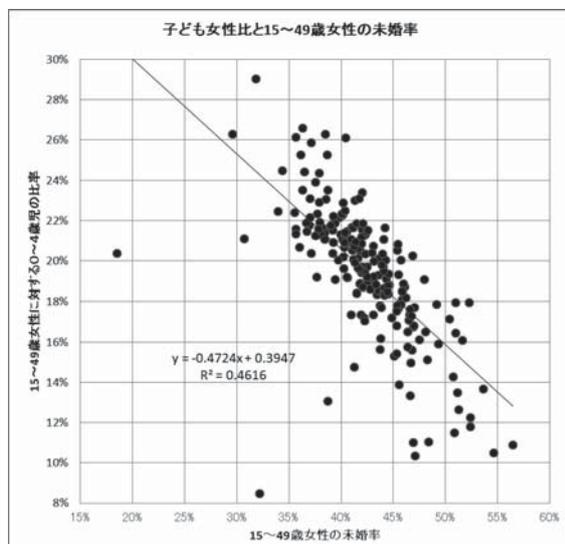
理想とする理想コースに着目すると、最も多いのは再就職コース(35%)で、次いで両立コース(31%)、専業主婦コース(20%)、非婚就業コース(5%)、DINKSコース(3%)の順となっています。これを実際になりそうな予定コースと比べると、専業主婦コースが大きく減り(20%→9%)、両立コースも減って(31%→25%)、その分だけ非婚就業コースが増えており(5%→18%)、この理想コースと予定コースの変化に、未婚化の要因が潜んでいるように思われます。

こうした未婚女性の意識を踏まえつつ、未婚問題に関する幾つかの文献を読んで私なりに結論を整理すると、どうも未婚女性には、次の4つのパターンがあるように思います。

### 未婚パターンA：白馬の王子待望型

前述のライフコースで再就職コースや専業主婦コースを選択する未婚女性で、それなりの収入のある男性の登場を待ち焦がれながら、結婚適齢期で高収入の男性は多くはいないため、結果として未婚が続いているパターンです。

パラサイトシングルや婚活という造語を考案された山田昌弘先生(中央大教授)は、高収入の男性(白馬の王子)を求めて未婚を続けるのではなく、結婚後も女性も働いて結婚のハードルを下げることを勧めておられます(注1)、そう勧められている対象が、このパターンAの未婚女性です。また男性側



資料：国勢調査(2010年)

も、高収入でないので結婚できないと、勝手に諦観しているケースもあるようです。

このパターンの女性に結婚へ踏み切ってもらうには、山田先生が言われるように、男女ともに（さらに双方の親も）共働きを許容することと、女性が働きながら子育てすることが容易な環境条件を整えることが有効だと思われます。

**未婚パターンB：自立継続追求型**

前述のライフコースで両立コースを選択する未婚女性に対して、それを許容できる男性に限られていることと、女性側も自分より高い収入を相手に求めるケースが多いことから、ハードルが上がって、未婚が続いているパターンです。

この両立コースを選択する女性は、過去の調査をみると顕著な増加傾向にあり、今後、さらに増加すると予想されます。この背景としては、長寿命化によって子育て後の人生が長くなり、また高学歴化も進んだことから、自分の世界を大事にし、「母として」「妻として」よりも「個人として」自立して生

きたいと願う女性が増えていることが挙げられています（注2）。

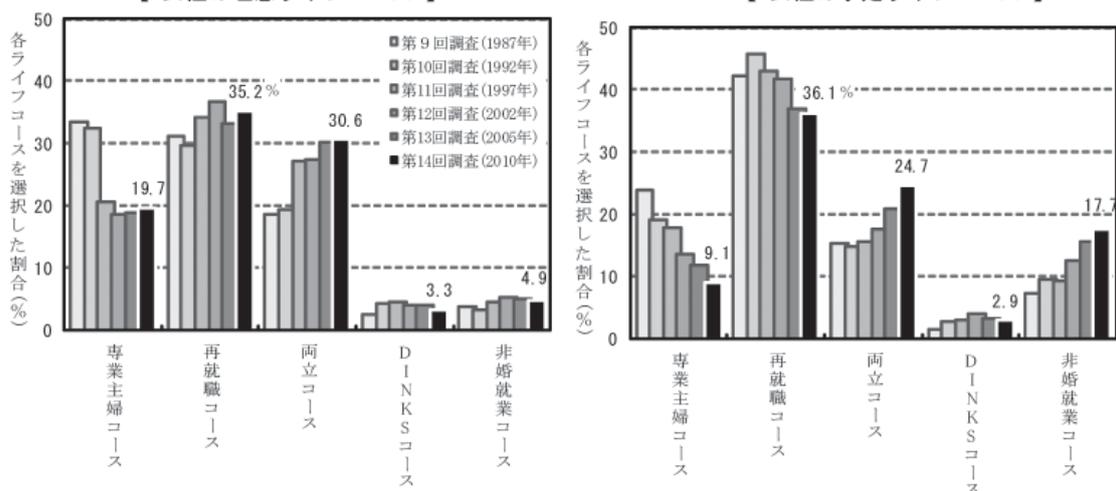
このパターンの女性の結婚を促進するためには、男性側が（さらにその親も）共働きを許容すること、また女性側も男性の収入のハードルを高くしないこと、そして女性が働きながら子育てすることが容易な環境条件を整えることが有効だと思われます。

**未婚パターンC：見合い潜在需要型**

パターンAやBのような女性のライフコースとは関わりなく、男性と出会う機会が少ない女性や、男性と交際するのが不得意な女性もいます。過去、恋愛結婚より見合い結婚の方が多かった時代では、このパターンの方でも円滑に結婚に辿り着きました。しかし、最近の見合い結婚の比率は、国立社会保障・人口問題研究所による調査（注3）でみると2005～2010年で5.3%しかなく、見合い結婚は時代遅れという雰囲気があることから、見合い結婚に踏み切りにくくなっているように思われます。

このパターンの女性の結婚を支援するには、見合

調査別にみた、女性の理想・予定のライフコース、男性が女性に望むライフコース



ライフコースの説明：

- 専業主婦コース＝結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない
- 再就職コース＝結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- 両立コース＝結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける
- DINKSコース＝結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける
- 非婚就業コース＝結婚せず、仕事を一生続ける

出典：「第14回出生動向基本調査 わが国独身層の結婚観と家族観」（2010年、国立社会保障・人口問題研究所）



いに代わる出会いの場づくりが重要です。近年増えている出会いパーティも、こういう観点から位置づけることは出来ませんが、ただ飲食の場を提供しているだけの現状の進め方では、その効果は疑問であり、むしろボランティアや地場産業の現場など、地域社会で若い男女が共同で活躍する場を提供し、そこから縁が生まれることを期待する声もあります（注4）。

**未婚パターンD：生涯独身主義型**

前述のライフコースで非婚就業コースを選択する女性もいます。ただし、このコースが理想コースより予定コースで増えているように、結婚する意思はありながら結婚できない状態が続くため結婚を諦めて、このパターンに転換していることが推察され、こうした転換を防ぐことが重要です。

**就業率向上による未婚率の低下**

以上のパターン別の考察を取りまとめると下表のとおりとなり、未婚率を下げて出生率を高めるには、共働きの推進（女性就業率の向上）が大きな課題であることが浮かび上がってきます。

すなわち、理想のライフコースで再就職コース、両立コース、専業主婦コースの3コースが大部分を占め（合計86%）、これに対応するパターンA（白馬の王子待望型）とパターンB（自立継続追求型）の未婚女性については、共働きを許容することで、結婚のハードルが下がり、共働きを促進するため子

育て世帯を支援する条件（保育サービス、通勤時間、子育て支援等）を整えることも有効だと思われます。

この点では、前々号（その1）で、女性就業率が高いことが出生率を高める理由として、経済的余裕と精神的余裕を挙げ、専業主婦の世帯より共働き世帯の方が、子どもが多いと受け取れる論述をしましたが、訂正が必要です（調べながらの泥縄執筆で申し訳ないです）。事実、国立社会保障・人口問題研究所による調査（注3）で、妻の就業状況別の予定子ども数を多い順にみると、自営業種・家庭従業者が2.20人、無職・家事が2.19人、正規の職員が2.14人、パート・アルバイトが2.07人、派遣・嘱託・契約社員が1.93人であり、パート・アルバイトや派遣・嘱託・契約社員のような非正規雇用者を除けば、ほとんど変わらないことが示されています。したがって正しくは、共働きを許容する男女が多いと未婚率が下がり、それに伴い出生率も高まると理解すべきだと思います。

- 注1：例えば著書『「婚活」時代』（2008年）など
- 注2：例えば「子どもという価値 少子化時代の女性の心理」（2001年5月、柏木恵子、中公新書）
- 注3：「第14回出生動向基本調査 わが国夫婦の結婚過程と出生力」（2010年）
- 注4：例えば「なぜ結婚できないのか 非婚・晩婚時代の家族論」（2005年4月、菊池正憲、すばる舎）

未婚女性のパターン分類と結婚促進策の方向

パターン	特徴	未婚の要因	結婚促進策の方向
未婚パターンA 白馬の王子待望型	結婚や出産を機に少なくとも一旦は退職を志向。	高収入の男性を求めますが、多くはいない。	結婚後、女性も働きハードルを下げる。子育て環境も重要。
未婚パターンB 自立継続追求型	結婚後も就業を続け、自立を追求。	共働きを許容できる男性が少なく、女性も自分より高い収入を求める。	男性は共働きを許容し、女性も収入のハードルを高くしない。子育て環境も重要。
未婚パターンC 出会い潜在需要型	出会う機会が少なく、交際するの不得意。	見合い結婚は時代遅れという雰囲気がある。	新たな出会いの場を創る。
未婚パターンD 生涯独身主義型	結婚しないことを選択。	未婚が続く結婚を諦めるケースもある。	他のパターンからの転換を防ぐ。



## 「隠れキリシタンの里 千提寺さと巡り」を

## 開催しました

／地域再生デザイングループ 岡崎まり・中塚一・嶋崎雅嘉

### 隠れキリシタンの里 “千提寺”

茨木市北部地域に位置する千提寺は、歴史教科書にも掲載されているフランシスコ・ザビエルの肖像画（神戸市立博物館所蔵）が発見された隠れキリシタンの里です。明治6年に禁教令が解かれてからも大正8年に隠れキリシタンの里として発見されるまで秘教形態が守り続けてられてきたこの土地には、その頃と変わらない緑豊かな風景が今も息づいています。

しかし、今、この地域に大きな変化が訪れようとしています。現在、建設中の新名神高速道路が集落内を横断し、インターチェンジも出来る予定となっているからです。

### まちの魅力を伝えるために

新名神高速道路の建設は、これまで地域の原風景として育んできた自然環境を大きく変化させてしまう懸念があります。しかし一方で、今後多くの観光客が訪れる可能性を秘めており、地域の魅力を伝えられる良い機会になると考えられます。

そのため、地域の人たちは道路整備が進められている間にまちの魅力を再発見し、多くの人にその魅力を伝える技を磨こうと、今年度の4月に実行委員会を立ち上げて動き出しました。アルパックはその活動のサポート役として係わらせていただいています。

### 「隠れキリシタンの里 千提寺さと巡り」の開催

実行委員会が立ち上げられた後、何度も話し合いを重ね、9月14日に第1回目となるイベント「隠れキリシタンの里 千提寺さと巡り」を開催しました。

このイベントは、集落内を散策する「隠れキリシタンの秘密を解明せよ！」と、田んぼのあぜ道を竹灯籠で灯す「隠れキリシタンの夕べ」の2本

立てで行いました。

「隠れキリシタンの秘密を解明せよ！」に向けては、集落に残るキリシタンゆかりの場所を結び、約2時間半の散策ルートを作りました。散策ルートにはキリシタン墓碑が発見されたクルス山なども含まれていたことから、足元が滑りやすい山道などではロープで手すりを作ったり、木で階段を作るなどの整備が地元住民の手で行われました。

当日は、より興味をもって説明を聞いてもらえるようにクイズを5問出題し、それを解きながら集落内を散策してもらいました。

参加者からは「案内が丁寧でわかりやすかった」や「自然に癒された」、「手作り感がよかった」といったうれしい感想をいただきました。

また、「隠れキリシタンの夕べ」では秋の虫の声が聞こえる中、やさしいろうそくの光が暗闇に灯り、「きれいやね」という声が色々なところから聞こえてきました。

これら2つのイベントのほかにも、集落で採れたヤマモモやキンカン、カボスでつくったジャムを使ったお菓子が振る舞われたり、地域で採れた野菜の販売、千提寺の風景や行事を伝える写真展なども同時に行われました。

### 今後に向けて

第1回目のイベント終了後、既に反省会や今後に向けての話し合いが進められています。地域の魅力を発信するためには、単発のイベントではなく、継続的な活動が重要です。

そのために、千提寺の地域住民は既に次に向けての面白い企画を検討しています。早ければ春ごろに！！それまで楽しみにしててください。



「隠れキリシタンの秘密を解明せよ！」での案内の様子



クルス山への案内板



キリシタン墓碑



**秋のバルフェス+あべのハルカスバル in 阿倍野・天王寺の開催をお手伝いしています**

地域再生デザイングループ  
／中塚一・西村創・羽田拓也

**7地区を「秋のバルフェス」でつなぎます！**

この秋（10～11月）に、天王寺区、阿倍野区、住之江区、住吉区で開催されている「まちなかバル」の7地区（上本町、阿倍野・天王寺、昭和町、西田辺、長居、住之江・住吉、あびこ）の8実行委員会が連携して、「秋のバルフェス」が開催されます。4区の商店会連盟、4区役所が協力し、大阪商工会議所南支部の支援で行われる初めての取り組みです。

今回、「あべのハルカス」の誕生が、周辺地域の懸け橋となり、その垣根を越えて手をつなぐ機会となりました。

そこで、実行委員会では、「バル」がスペイン語であることにかけて、懸け橋を意味するスペイン語「プエンテ」をキーワード



ドに、7地区の地区情報や期間中に実施されるイベントの情報などをまとめた「秋のバルフェスガイドブック」の制作、各イベントをつなぐプエンテラリー（スタンプラリー）を実施することになりました。

今回の各地区が連携しての取り組みをキッカケにして、区や地域を飛び越えた新たなにぎわいづくりなどがさらに行われていくようになれば、と考えております。

なお、今回のプエンテラリーでは、阿倍野・天王寺地区の企業や商業施設にご協力いただき、阿倍野・天王寺地区をより楽しめる商品が当たります！ぜひご参加ください。

詳しくは、秋のバルフェス HP：<http://bar-fes.seesaa.net/> をご覧ください。

**あべのハルカスオープンをきっかけにしたバルを開催します**

秋のバルフェスのスタートとして、阿倍野・天王寺地区では「あべのハルカスバル in 阿倍野・天王寺」が開催されます。



地下街をポスターでジャックしてPR

大阪市内の第3のターミナルである阿倍野・天王寺地区では、近年、キューズモールなどの商業施設のオープンや改装が相次いでいます。また、今年6月に近鉄百貨店あべのハルカス本店タワー館が先行オープン、JRと近鉄百貨店、あべのキューズタウンを結ぶ歩道橋が新たに架け替えられるなど、まちが大きく変わってきています。

地元の商店街などもこうしたまちの変化を阿倍野・天王寺地区全体としての連携を深めていく機会と捉えておられます。

そこで、阿倍野区と天王寺区、様々な商業施設の垣根を越えた取り組みとして、大阪商工会議所南支部の支援により、2区の商店街連盟や周辺商業施設が連携・協力し、「あべのハルカスバル in 阿倍野・天王寺」を開催することになりました。

阿倍野・天王寺地区の116店舗が参加して、10月5日（土）に開催しました。来られたお客様は、飲食だけでなく、映画やマッサージ、物販店のおもてなしバルなども楽しめました。

あべのハルカスバル in 阿倍野・天王寺は終了しましたが、秋のバルフェスイベントは、11月末まで続きます。

ぜひ、この秋は、阿倍野・天王寺区をはじめとする大阪市南部でお楽しみください！！

あべのハルカスバル in 阿倍野・天王寺 HP：

<http://abenoharukas-bar.seesaa.net/> をご覧ください。



**西京銭湯部隊沸いてるん  
ジャー参上！！**

地域再生デザイングループ  
／嶋崎雅嘉

**最近お風呂屋さんに行きましたか？**

みなさん、最近お風呂屋さんに行ったことありますか？「長らく行ってないな〜」「スーパー銭湯なら・・・」という方も多いのではないのでしょうか。

まちのお風呂屋さんは、顔見知りだけでなく見ず知らずの人同士のおしゃべりが楽しめ、子どもがおっちゃんに叱られながら社会のマナーを身に付けるなど、まちの社交場であるとともに、お年寄りが安心して入浴できる場所、災害時の給水拠点など、まちにとってその存在はとても大切です。

私自身も子どもの頃に両親とお風呂屋さんに通った思い出や、脱衣場のテレビで入浴客全員が大相撲観戦で盛り上がった思い出があります。お風呂屋さんは親子のふれあいや世代を超えた

コミュニケーションのできる場としても大切なまちの機能です。

しかし、最近では内風呂が主流でまちのお風呂屋さんに行く方は少なくなってきており、廃業するお風呂屋さんも多くなっています。私が住んでいる京都市西京区でもお風呂屋さんは「桂湯」1軒だけとなってしまいました。

**西京銭湯部隊沸いてるんジャー参上！！**

そのような状況の中、西京区では「ふらっと・西京」という区民のワークショップから、西京区のお風呂屋さんを盛り上げるべく「西京（さいきょう）銭湯部隊沸いてるんジャー」というグループが立ち上がりました。

沸いてるんジャーでは、これまでお風呂屋さんに行ったことがない子どもやファミリー層に、お風呂屋さんの「気持ちよさ」「大切さ」を感じてもらい、実際に来てもらうきっかけをつくるために様々な活動に取り組んでいます。

8月26日には、最初の取り組みとなる「わくわく桂湯」とい

うイベントを開催しました。当日は、子供からお年寄りまで約70人が参加し、「マジック&腹話術ショー」「寸劇紙芝居」「お風呂の歌」「お風呂ダンス」を楽しみ、笑顔あふれる1時間半を過ごしました。

当日の即席アンケートによると、このイベントをきっかけにはじめて「桂湯」に来たという方も多く、活動の目的通り、お風呂屋さんに来てもらえるきっかけとなりました。また、イベントには参加しただけでも、イベントのPRを通じて「あんなところにお風呂屋さんがあったのか」「桂湯さんがあるのは知っていたけれどちゃんと営業してるのね」という反応が聞こえてきており、間接的な波及効果もあったようです。

今後も、沸いてるんジャーでは、お風呂上がりの素敵な笑顔を増やすために、地域の人材と資源をつながけながら活動していきたいと思いますので、応援よろしくをお願いします。

**【桂湯まめちしき】**

住所：京都市西京区桂木ノ下町21-2（阪急桂駅東口より徒歩4分56秒）

定休日：月曜日・金曜日

営業時間：15：30～22：30

特徴：建物は昭和4年築。井戸水を使用しているため肌に優しいお風呂です。

西京銭湯部隊沸いてるんジャーフェイスブック

<https://www.facebook.com/waiterunjar>



なんと！番台を動かして舞台が設営されました



紙芝居から飛び出てきた王様。はじめてお風呂屋さんに来たのでわからないことがいっぱいです



## お盆

名誉会長／三輪泰司  
(NPO 平安京・代表理事)

前号と一緒にお送りした宛先確認葉書で、たくさんご意見を頂きました。私宛にも25通のお言葉を頂戴し、ありがとうございます。7・8月は、お盆で、忙しくしておりました。

### いのちの繋がり

我が家の菩提寺・天性寺さん(京都市中京区)には猛暑の中を8月11日に、拙宅へおまいり頂きました。家内の実家も、いつの間にか、長老の部になってしまい、面倒みるようになっていきます。少し早く7月18日に城崎温泉の極楽寺へ参上し、西垣天道師のお話を伺いました。

お盆には、お精霊(ショウライ)さまと呼んでいる祖霊が、一年に一度、家の仏壇へ還ってこられます。お迎えする行事があれば、お送りする行事もあります。8月16日、京都の五山送り火は、世界に類を見ない信仰を軸とする都市的スケールのイベントですね。

お盆は、祖先から自分へ、自分から子孫へ、生命の繋がりを感じる時です。世代から世代への継承は、家でも企業経営体にとっても、とても大事な課題です。

### 世代継承の知恵

お盆におまいりに来た妹に良いことを教わりました。後期高齢者医療被保険者証の裏に、臓器提供の意思表示をする欄があり

ます。本人署名と家族の署名が要ります。妹は連れ合いがいないので、兄さん署名してということで、サインしました。実は運転免許証でも同じ趣旨の意思表示をすることができます。これで、確実に自分のDNAが人類の未来へ繋がって行きます。

臓器の全てでなくともよいのです。眼球だけでもよいのです。

家でも企業でも、全て伝えようというのは無理です。自分がそうですが、創業者というのは、次世代へ、何もかも伝えたいものです。自分でも父や祖父の教えをそっくり受け継いでいないのです。

アルパックで言えば、西山外三先生の教えの十分の一も受け継いでいないでしょう。

### 家訓と家風

世代継承は、心がけとかで達成しようとしても無理です。そこで、何か仕組みとか、ルールで出来るだけ正確に継承しようとしています。

老舗の「家訓」や社是・校訓は、その一つの知恵だと思います。

アルパックで言えば、性格規定の「プランニング・コンサルタント」であり、組織原則の「小集団のアソシエイツ」がそうで、そのための行動規範には、定例会議厳守などがあります。

世代継承のカギは、やはり「人」。人と人の繋がりであり、人を育てること。それは父祖の教えでした。私の家一本田・三輪家には三ヶ条の「家訓」があり

ます。その第3条「家の子は宝、慈しみ育むべし」。家の子とは、従業員と協力者のことと教わっていました。実際、祖父は夜義と称して、丁稚たちに教育をしていました。皆、尋常小学校を出ただけという時代です。読書き、算盤から、なんと論語まで講義していました。そのモチベーションはなにか、歴史を探求してみました。明治という時代の大激変に行きあたりました。祖父はその父・二代目丹波屋茂助・廣吉を尊敬していたのです。私の曾祖父です。同志社英学校の創立者・新島襄に協力した山本覚馬と同世代です。禁裏御用商の立場をいかし、東京遷都で難しい目にあっていた宮家・公卿と、新島襄の間に立って働いていました。周囲からは耶蘇の学校のために宮さんの家を渡すとはと非難されたが意に介せず、奔走したと伝わっています。

因みに今の六代目まで、同志社出身です。こうして家風・社風・学風が出来て行くのでしょうか。

アルパックも46年。たくさんの方々のご縁を頂いてきました。

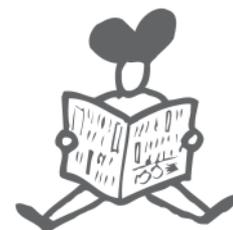
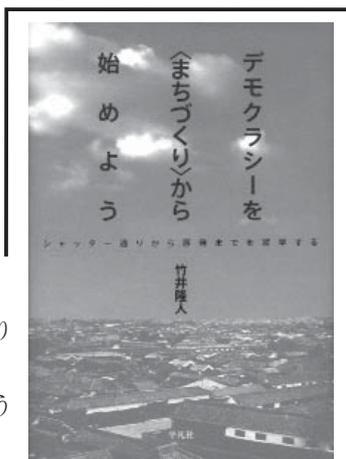
お盆の行事は、めいめいにアイデンティティを確かめ、使命を自覚させる先人の知恵だと思います。



## MEDIA WATCH

### 『デモクラシーを〈まちづくり〉から始めよう』

著者：竹井隆人  
出版：平凡社



紹介者／都市・地域プランニンググループ  
坂井 信行

#### コミュニティ＝仲良し

私たちは日頃、各地のまちづくりに関わらせていただいています、現場でよく使うフレーズに次のようなものがあります。

「まずはコミュニケーションを深めてコミュニティを意識しましょう」

この背景には、コミュニケーションの希薄化が自分の住むまちへの関心をも低下させ、コミュニティの崩壊（とまではいかないにしても少なくとも弱体化）を招いたという前提があります。そしてそれは、まちづくりにおいてコミュニティを重視する価値観へとつながっています。

こうした価値観に対して、本書では「コミュニティ＝仲良し」に過ぎず、社会（ここではまちづくりの主体となる共同体）の組成原理としては不十分、かえって害悪をもたらす可能性すらある、という刺激的な主張が展開されています。

#### コミュニティは排他的

著者の主張はこうです。まちづくりは「コミュニティ＝仲良し」をベースとする共同体が担っていくべきであるという考え方には疑問がある、なぜなら、仲良しというのは本来排他的なものであり、また全ての人と分け隔てなく仲良しになることは不可能だから。

つまりこういうことです。「成熟社会のまちづくりは多様な主体が協働で取り組んでいくことが大切」という考え方は社会の共通認識となっています。まちづくりの取り組みでは、外部にもネットワークを広げていこうとするオープンな姿勢が必要です。

しかし、まちづくりの主体となる共同体の構成をコミュニティにおき、かつ「コミュニティ＝仲良し」だとすれば、コミュニティづくりを進めれば進めるほど、つまり仲良しの度合いを深めれば深めるほど、コミュニティの外の人を排除する方向へと向かい、まちづくりにおけるオープンなスタンスが損なわれるという矛盾にぶつかってしまうのです。

#### まちづくりに必要なデモクラシー

こうしたこともあって、まちづくりの主体となるべきは民主的な政治を担う共同体、つまり私的政府であるべきだ、というのが著者の主張です。まちづくりはデモクラシーだと。まちづくりの主体となる共同体の組成原理は、あくまでも共通の価値や目標であるべきだということです。

典型例はゲートドコミュニティやオートロックのあるマンションです。これらは住民の生命と財産を守るという共通の目的のため、合意に基づき管理が行われています。全ての地区はゲートドコミュニティ（ゲートそのものをつけるという意味ではなく）を目指すべきだとも。

#### ほどほどの仲良しはどうでしょう

マッキーヴァーによる伝統的な定義では、コミュニティは統合的で、特定の目的を持つアソシエーションとは違うということになっています。しかし、目的を持たないがために親睦団体に堕したのではないか、という著者の指摘にはうなずけます。コミュニティは、まちをよくするという「目的」を共有するべきです。私も常々アソシエーション的なコミュニティが必要だと考えています。

シャッター商店街の再生には商店側の努力と周辺住民がその店で購入することの約定が必要、マンション紛争は高さ規制をしておかなかった「不作為」が問題、すべての問題を警察や行政など第三者に任せ切ってしまう社会制度が問題、といった著者の指摘は全面的に支持します。これらに共通して求められているのは、人ごとにしないう姿勢や当事者意識です。では、当事者意識はいかに育まれるのか。ポイントは地域への愛着でしょう。そしてそれは人を排除しない寛容なコミュニティにおいて醸成されるはず、と考えるのはロマンチストに過ぎるでしょうか。

仲良し過ぎるのは弊害があるなら、ほどほどに仲良しのアソシエティブ・コミュニティをめざしてみるのも良いかもしれませんね。



## まちなかに響く「阿波おどり」の音色

公共マネジメントグループ／高田剛司

「阿波おどり」は、日本三大盆踊りの一つで、400年の歴史を持つ徳島発祥の伝統芸能です。毎年8月12日から15日までの4日間、期間中の徳島市の街なかには、1,000近くの連（阿波おどりを踊るグループ）、約10万人の踊り子、約120万人の聴衆が全国から集まってくると言われています。特に、夕方以降は、駅から阿波おどり会館を結ぶ道路などの主要道路の一部が歩行者天国になり、演舞場やおどり広場と合わせて、さながら街全体が踊りの舞台に変貌します。今夏、その熱気を初めて体験しに行きました。

写真1は、通常は公園ですが、阿波おどりの期間前になると臨時的観覧席が設置され、祭り当日は有料演舞場となる「藍場浜演舞場」です。有名連や企業連が次々と踊りを披露していきます。

写真2は、中心市街地の商店街内で仙台から参加した連が踊り歩いてきたところです。

写真3は、歩行者天国となった新町橋周辺の様子です。多くの連が集結し、阿波おどりを繰り広げていきます。

ところで、これだけの踊りを披露するには、練習時間も相当確保しなければならないでしょう。徳島の人に聞くと、阿波おどりの練習風景は6～7月頃から街なかで見られるとのこと。

今年の5月から、徳島市をたびたび訪れていま

すが、なかなか、その「現場」に巡り会うことができませんでした。ようやく遭遇できたのは、8月1日



写真4：新町橋東公園での踊りの練習風景の夜8時半頃。徳島のシンボル「眉山」からJR徳島駅までを歩く途中、新町川を渡る手前で阿波おどりのお囃子が聞こえ、見ると、川沿いの広場で若い男女が練習に励んでいました（写真4）。さらに歩を進めると、他の場所からお囃子が聞こえ、街中で阿波おどり本番前の高揚感が体験できます。

このように、街中で聴こえてくる鳴り物の音色や、間近で見られる踊りの風景は、そのまちの文化に触れられた気がして、とても得をした気持ちになります。そういえば、伊勢市では、商店街のアーケードで、地元の子もたちが木遣りの練習をしていました。

昔から行われてきたように、公共空間を文化伝承の場としてみんなでもっと利用すれば、人々はまちに繰り出し、「豊かな」暮らしを手に入れられるのではないのでしょうか。



写真1：藍場浜演舞場



写真2：東新町1丁目商店街



写真3：新町橋周辺

## アルパック(株)地域計画建築研究所

Architects Regional Planners & Associates · Kyoto

<http://www.arpak.co.jp> E-mail [info@arpak.co.jp](mailto:info@arpak.co.jp)

本 社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四條通り高倉西入立売西町 82  
大阪事務所 〒540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F  
名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 6F  
東京事務所 〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-5-11 スクエア九段ビル 1F  
九州事務所 (株)よかネット 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764  
TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478  
TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760  
TEL(03)3288-0240 FAX(03)3288-0221  
8FTEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128



この用紙は「びわ湖の森を元気にする」  
kikitoペーパーを使用しています。